

## 編集後記

今は昔。成瀬先生から電話があって、部会誌のあり方について説かれた。査読付きの原著論文を掲載するものにしたと仰せであった。私もそうあって然るべきと思っておりました、などと賛意を述べ、ハナシが盛り上がったところで、ならば編集代表になってもらえぬかと切り出された。まんまと引かかってしまった。

事を始めるにはルールが必要である。ルールは遵守されねばならぬ。そこで水も漏らさぬものと意気込む。これがよくない。ものごとには期限があるのだから、いったん作っておいて適宜見直すのがよい。

かくして投稿規程ができた。その抜粋を本誌29頁に掲げた。抜粋ではなく全文を掲げればよいではないかといった向きもあるだろう。しかし現物は相当におどろおどろしいというか、どろどろしているというか、固まる前のプリンである。つまり印刷してお目にかけるには、いましばらくの冷却期間が要る。

趣向を凝らしたところがある。それは、第一に査読者の講評を載せることであり、

第二に文責者の氏名もことごとく載せるということである。査読者は、原著論文では2名、その他では1名である。趣向を凝らしたというのは編集委員会の独善に過ぎず、迷惑千万といった方がおられるかも知れないので説明をさせていただきます。

本部会会員であるからには、優れた論文が投稿されるだろう。しかし原著か短報かという段になると、査読の切っ先は鈍るかも知れない。もともと小さな所帯ゆえ互いに顔見知りであるから尚更である。そこで講評を氏名付きで載せるとどうなるか。投稿側は迷惑を掛けてはならぬと努力する。査読側は評価軸がぶれてはならぬと注意するし、自らの甘さや厳しさに葛藤を覚えたら、そのことを講評の中で述べれば幾らか気が晴れるだろう。

生命体にせよ組織にせよ発展と消滅がある。現在、本部会誌は年に1回刊行されているが、投稿論文の扱いが本格化して年2回刊、3回刊となれば、部会の消滅はかなり先延ばしになるだろう。

(実践女子大学 山崎和彦)

### 被服衛生学 第29号

2009年（平成21年）12月15日発行

発行者 （社）日本家政学会被服衛生学部会

URL : <http://www.hihukueisei.jp/>

代表 成瀬正春

事務局（庶務：丸田直美）

〒151-8521 東京都渋谷区代々木 3-22-1

文化ファッション大学院大学

事務局（会計：斉藤秀子）

〒400-0035 山梨県甲府市飯田 5-11-1

山梨県立大学

印刷所 日野テクニカルサービス株式会社

〒191-8660 東京都日野市日野台 3-1-1

電話 042-586-5062